

令和5年度 江戸川区立篠崎第五小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	思いやりのある子 よく学びよく考える子 心も体もつよい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	夢と勇気と笑顔にあふれる学校 学力と体力が向上する児童 正しく丁寧な言葉遣いをする「分かる授業」を追求する 元氣な挨拶をする「言ったことは最後まで」徹底する 教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>挨拶・礼儀・言葉遣い・態度・笑顔を中心とした指導を行ってきた結果、すすんで挨拶ができる児童が増えた。学校関係者評価においても「子供たちの挨拶が気持ちがいい」と評価をいただいている。 <課題>学力面では、全国学力・学習状況調査の正答率において国語が全国平均から11%、算数が12%低かった。児童の学習に向かう意欲を生かし、基礎学力を一人一人にしっかりと身に付けさせることが課題である。そのために、一人一台端末を活用して個別最適な学びの充実や、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を図る必要がある。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	年度末に向けた改善策
				取組	成果		
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進 ・学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得 ・家庭学習習慣に對しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①一人一台端末の活用のため教員の技術向上を図る研修会を行う。 ②授業スタイル「篠五スタンダード」を実施する。 ③3年生以上において、国語や算数の学習に取り組む「基礎・基本」の時間を設定する。 ④江戸川っ子study weekを設定する。	①一人一台端末を活用した研修会の実施…年間3回以上 ②毎学期確認し、教員内部評価肯定回答…9割 ③年間14回程度実施。漢字・計算の達成テストにおいて平均80点以上の児童…9割 ④各学期に1週間設定。	A	B	①1学期にICT研修会を1回行った。ICT支援員のさらなる活用を進めたい。 ②教員内評価は、できている・大体できているを合わせると100%であった。 ③基礎・基本の時間は、6回予定通り行ってきた。定着率は、5割であった。 ④家庭学習の習慣を定着させたい。	・タブレットを有効活用できる取り組みを進めてほしい。 ・ゲームやスマホとの時間と家庭学習の時間をしっかりと意識させたい。家庭でのしつこも大切。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①読書を通じた探究的な学習を実施する。 ②環境整備や授業支援について区立図書館の職員との連携を図る。	①学校図書館を利用した「問題の発見・解決、情報の処理、まとめ・表現する」調べ学習の実施…2年生以上の児童において学期に1度以上 ②学校図書館司書との打ち合わせ…週1回	A	B	①調べ学習につながる学校図書館の利用の仕方等を学習しつつ、調べ学習を実施した。情報処理や表現方法についても向上させた。 ②区立図書館の見学を2年生で行い、連携を図った。司書との打合せを通して、書籍の新規購入や環境整備を行った。	・今後も読書システムを有効活用してほしい。調べ学習の特に情報収集に役立ててほしい。 ・区の施設をたくさん活用できるとよい。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動遊びの実施・充実	①休み時間を活用した運動遊びの「ご〜タイム」を実施する。 ②夏季水泳指導を実施する。	①年間35回の実施。児童アンケートの「休み時間、校庭で遊びや運動ができた」の肯定回答…9割 ②夏季休業中に10回実施。児童の参加率…7割	B	B	①Lのゴ〜タイムや外遊びは、熱中症の危険があった場合等を除いて行うことができた。 ②夏季休業中は、暑さのため3回の実施のみとなった。参加率は、5割程度であった。	・熱中症には、十分気を付けてほしい。コロナがあけて、たくさん体が動かせるようになったのでよかった。 ・水泳中でも暑さについての注意が必要になる気候になった。いろいろ改革が必要になってきている。
	<食育の推進> ・食に関する指導の実施・充実	①「食に関する指導の全体計画」に基づいた授業を実施する。	①栄養士や外部講師による食育に関する授業の実施…各学年年間1回以上	A	A	①1学期は、1年生、2年生、5年生で生活科や学級活動の時間で授業を実施した。「魚しぐし」の授業は、外部講師を招いた。職に対する興味・関心が高い。	・家庭や地域の協力も必要である。 ①ハイキング箱食の実施など児童が食や健康に興味をもてるように指導内容を工夫する。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①授業のユニバーサルデザイン化のための3つの視点「焦点化」「視覚化」「共有化」を取り入れた授業について教員が学ぶ機会を設け、実施する。 ②エンカレッジルームについて保護者に周知する。 ③副籍交流の推進	①児童アンケートの「学校の授業は分かりやすいと思う」肯定回答…8割 ②保護者へは学校ホームページを通じてエンカレッジルームの役割を周知…年2回 ③学校だよりによる間接交流…毎月1回	C	B	①研修会を2学期に計画している。 ②エンカレッジルームは、特別支援教室、教育相談、不登校傾向児童の居場所として活用している。ホームページで2学期と3学期に周知する。 ③学校だよりによる間接交流を4月に行った。それ以降は、中止にしたいという申し入れがあったため、行っていない。	・ユニバーサルデザインについての具体的な取組も知りたい。 ①他校の取り組みや好事例を校内で共有していく。どの児童にとっても「わかる、できる」授業を目指していき。 ②ホームページでエンカレッジルームの役割を周知する。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	①担任、養護教諭を中心としチームで不登校対策を行う。家庭との連携を密にし、児童・家庭のケアに努める。また、対象児童の様子について校内で共有を図る。 ②SCによる全員面接を実施する。 ③いじめに関する授業を実施する。 ④いじめに関するアンケート調査を行う。 ⑤「Hyper Q-U」を実施し、分析結果を学級経営や個人面談に生かす。	①生活指導夕会の実施…毎週1回 生活指導全体研修会の実施…各学期1回 ②4、5、6年生の児童への全員面接…年間1回以上 ③いじめに関する授業の実施…学期1回以上、全校指導…年3回 ④アンケート調査…年間3回実施 ⑤「Hyper Q-U」の実施…年1回。生活指導夕会において学校全体で結果を共有、児童理解の促進や個人面談に生かす。	A	B	①生活指導夕会、全体研修会を予定通り実施した。毎週の夕会での共通理解により、チームでの対応ができた。研修会では、子供への対応等を見直した。 ②5年生、6年生が1回ずつ面接を行った。 ③6月に全学級でいじめに関する授業を行った。全校指導は、1学期に3回行った。 ④アンケートを6月に実施し、結果を踏まえて児童との面接を行い、解決に導いた。 ⑤結果を児童理解、学級経営に生かした。個人面談でも活用した。結果を一つのフォルダにまとめ、共有した。	・子供たちが落ち着いていた。これからも子供に寄り添った教育をしてほしい。 ・子供たちの指導に時間を使えるよう、働き方改革をさらに進めてほしい。 ①今後も担任、養護教諭を中心として家庭との連携を密にする。また、生活指導夕会で児童の情報を共有し、学校全体で共通した対応を行う。 ②4年生の全員面接を11月・12月に実施する。また、教育相談を必要とする保護者はSCにつないでいく。 ③いじめに関する授業、全校指導を継続して行う。 ④2学期・3学期にもアンケートを実施し、早期発見・早期対応に努める。 ⑤結果を生かし、児童理解に努めていく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	①自校のホームページを使って、本校の教育活動を広く周知する。学校が伝えない、かつ、保護者が知りたい情報を精選し、見やすいサイト構築する。 ②学校公開を実施し、教育活動の様子を保護者や地域の方にも知ってもらう機会とする。	①ホームページ「学校日記」の記事更新…週3日以上、学校だより、学年だより等の更新…毎月1回 パソコンサイトと携帯サイトの運動を図ることによる保護者が手軽に見られるページ作り ②学校公開の実施、ホームページによる周知…年4回。	B	B	①ホームページの「学校日記」は、週に3回程度記事を更新できた。学校だより、学年だより等は、毎月更新している。携帯でも見やすいように画面を工夫した。 ②1学期には、5月に体育の学習発表会、6月に学校公開を行った。ホームページによる周知も行い、教育活動を広く知ってもらう機会とした。	・ホームページは、より見やすく工夫されてきていることが分かった。時間の捻出が大変だと思いが、優先順位をしっかりとつけて、より良いものにしていくように画面を工夫する。 ②学校公開の時間割や音楽会のプログラムを載せるなどし、学校行事についてホームページで周知していく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①学校評議員会を実施する。 ②保護者評価を実施する。 ③学校公開や運動会、音楽会において保護者アンケートを実施する。 ④教育活動の改善・充実に向けたPDCAサイクルを強化する。	①学校評議員会の実施…年3回 ②保護者評価の実施…年1回 ③保護者アンケートの実施…年6回 ④学校関係者評価報告書のホームページでの公開、更新…年3回	B	B	①学校評議員会は、1学期には7月に実施した。 ②保護者のアンケートは、11月に予定している。 ③各行事において、その都度アンケートを行い、次回の実施に生かしている。 ④学校関係者評価報告書は、中間報告、最終報告を公開する予定である。中間報告の結果を目標達成に生かしていく。	・学校評議員会で学校と意見交換ができるのはありがたい。また、学校公開日の開催であったので、子供たちの様子も見られてよかった。子供たちが落ち着いて生活していることが分かった。 ①11月と1月に学校評議員会を開催する。 ②保護者アンケートを11月に実施する。 ③9月の学校公開、11月の音楽会で保護者アンケートを実施する。 ④2学期に中間報告を、3学期に最終報告を公開する。
特色ある教育の展開	<学校農園の活用> ・田んぼの学校、篠竹の学校、農園のある学校としての活動の充実	①1～4年生は農園での野菜作り、5年生は稲作、6年生は菊壇りを行う。	①農園活動についての児童、保護者の肯定評価…8割以上	A	A	①農園での活動は、保護者や学校応援団の協力も得て、充実したものとなっている。学校1階廊下に農園についての掲示を行い、活動について周知した。	・農園は篠五小の大きな特長なので、今後もいろいろな方の協力を得て大切にしていってほしい。 ①今後も学年だよりや学校ホームページで農園での活動を発信したり、協力をお願いしたりしていく。
	<望ましい生活習慣の確立> ・規律が保たれ、すべての児童が安全に安心して過ごせる学校づくり	①「静・整・動」(話を聞く・時間を守る、掃除を大切にすること)に重点的に取り組む。	①児童アンケートの「『静・整・動』を意識して生活することができた」肯定回答…8割以上	B	B	①教職員が「静・整・動」を意識した指導を日常的に行っている。教員内評価では定着率が9割を超えたが、「時間を守る」はA評価が少なく今後の課題であった。	・子供たちは元氣なあいさつができています。今後もあいさつを柱に子供たちの教育に当たってほしい。 ①「整(時間を守る)」に教職員が率先して取り組んでいく。